06年　マイワシ

単位：数量，1,000トン、価格，円／kg

年	数量 漁獲	産地	輸出 生冷	輸出 缶	消費地 生	消費地 塩干	在庫	加工品生産 缶	身カス	塩蔵	煮干	塩干	輸入 ミール	輸入 生・冷	消費支出 生(グラム)
17	28	9.8	1.5	0.1	13.6	11.5	17.4			0.8	29.6	27.3	373	38.6	801
18	52	39.2	2.0	0.2	17.0	10.5	20.4						408	20.1	865
%	186	401	130	149	125	90.9	117	-	-	0	0	0	109	52	108

年	価格 産地	輸入 ミール	輸入 生冷	輸出 生冷	輸出 缶	消費地 生	消費地 塩干	消費支出 生(円)
17	241	76	88	93	538	381	877	699
18	115	113	92	93	549	321	859	739
%	47.7	149	105	100	102	84.3	98	106

海域	17	18	対比(%)
道東	0	0	-
三陸	2	6	311
常磐	6	29	464
九州	1	2	251
山陰	1	0	0
その他	1	2	173

MAX S63年、4488千トン

漁獲量と資源

18年のマイワシの漁獲量は、少ないながらも5.2万トンと前年の2.8万トンを大きく上回り、近年でも最低の水準を更新し1970年初頭の低水準時代の数量であった。

道東漁場では、引続きマイワシの漁獲は皆無であったがカタクチイワシが3.4万トンで前年（約2,360トン)を大幅に上回った。北部太平洋海域のマイワシの漁獲は三陸・常磐とも前年を大きく上回り、一昨年をもやや上回る漁獲となった。また、近年漁獲の急減をみている山陰でも、混獲での漁獲があった程度であった。

太平洋系群のマイワシの資源量は1981年に1,500万トンを超え、1988年まで1,400万～1,900万トンと高水準で安定していたが、1989年から急減し、1994年には88万トンとなった。1995～1999年までは70万トンを超えて低水準ながら比較的安定していたが、2000年から再び減少傾向となり、2004年は16万トン、2005年は12万トンと推定された。2006年は、2006年級が近年の平均的な再生産関係により加入するとの仮定のもとで約11万トンと推定された。親魚量も減少傾向が続いており、2006年は約7万トンと推測されている。

対馬暖流系群の資源量は1989年以降、急激に減少し続けている。1989～1994年の資源量は100万トン以上であると計算されたが、1995年以降は100万トンを下回り、1997年以降は10万トン以下、2001～2004年にはBban（資源量5千トン）以下であったと判断された。2005年の資源量は加入が良かったため、Bbanよりは上回り70百トンと推定された。産卵調査によると、2001年よりは卵豊度は高いものの、依然として低水準のままである。資源水準は低位、動向は横ばいと判断されている。

産地水揚量と価格

18年の水揚量は、3.9万トンで少ないながらも前年（1万トン）を大幅に上回った。したがって価格は、115円で前年（240円）を大幅に下回った。

北部太平洋海域での漁は、往事の勢いにはほど遠いが若干回復し昨年を大幅に上回った。

なお、本年のミール相場も、年明けの10万円／トンから始まったが、６月以降22万円まで急騰し11月上旬まで続いた。その後18万円まで下げ、年末まで続いたが、市況の騰落の激しい１年となった。

三　　陸

18年の三陸での漁況は、初漁期（北上期）の4､5月は昨年同様皆無、夏場にかけて昨年をやや上回ったが、水準としては低かった。

三陸(単位:1000トン)			常磐(単位:1000トン)		山陰(単位:1000トン)		日本海北(単位:1000トン)	
月	17年	18年	17年	18年	17年	18年	17年	18年
1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
3	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0
4	0.0	0.0	0.8	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
5	0.0	0.0	1.6	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
6	0.0	0.0	1.1	6.8	0.0	0.0	0.0	0.0
7	0.6	2.3	0.3	12.8	0.0	0.0	0.0	0.0
8	0.7	1.2	0.0	6.0	0.3	0.0	0.0	0.0
9	0.3	0.4	2.2	0.1	0.3	0.0	0.0	0.0
10	0.1	0.9	0.0	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0
11	0.0	0.7	0.1	0.8	0.2	0.0	0.0	0.0
12	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0
計	1.8	5.6	6.2	28.6	1.4	0.0	0.0	0.0
MAX	S61年1097千トン		MAX S58年822千トン		MAX H元年713千トン		MAX	

秋から冬場の南下期も昨年をやや上回ったが、水準としてはやはり低かった。

魚体は、周年を通じて2005年級群主体に漁獲された。

常　　磐

18年の常磐での漁況は、初漁期、前年は皆無であったが、本年は若干漁獲がみられた。北上期も前年を上回り、また、後半の南下期はやや低調となったが、それでも前年を上回った。

魚体は、周年を通じて2005年級群主体に漁獲された

山　　陰

18年の山陰での漁況は、全漁期を通じてマイワシ単独での漁獲はなく、混獲による漁獲が僅かにみられたのみであった。

また本年も上半期4～5月と下半期8～10月に、カタクチイワシが本年も昨年以上にまとまって漁獲され、水揚げも多かった。

在　庫　量

本年の平均在庫量は、特に下半期にかなり増加したことを受けたことの結果2.0万トンで前年(1.7万トン)を上回った。これは、特に低水準な資源水準の中でも、国内生産が昨年を大きく上回ったことが、輸入量の減少を相殺した事の結果である。越年在庫は2.3万トンで前年(1.9万トン)を上回った。

輸　出　入

本年の輸入ミールは、40.8万トンで前年（37.3万トン）をやや上回った。

輸入ミールは２１世紀に入って再度増加傾向を見せて、この2002,2001年間は40万トン台に輸入

量も回復しつつあり、本年も2002年以来の40万トン突破となった。

また、平成７年頃から餌料不足により外国(米国、メキシコ)からの原魚輸入もみられていたが、現在では、依然この両国が主体で（夫々11,662トン、4,104トン）であり、缶詰主体に鮮魚向けにも国産の代用品として利用・販売されている。また、その他フランス、オランダ、カナダ等からも輸入されている。また国内漁獲が若干の回復を受けて本年は、2万トンで前年（3.9万トン）を大きく下回った。

輸出は缶詰と冷凍に分かれるが、缶詰輸出は、サバ缶同様減少の一途を辿っていたが、本年は0.2千トンで前年（0.1千トン）をやや上回り、久しぶりに多少増加した。

また、冷凍輸出は国内漁獲が前年をやや上回ったこともあり2千トンと前年(1.5千トン)をやや上回った。

価格は、缶詰が549円で前年（538円）をやや上回り、冷凍は93円で前年（93円）並みであった。

消費地入荷量と価格

本年の10大都市の入荷量も、1.7万トンで前年（1.4万トン）をかなり上回り、産地で水揚げ増加を反映した結果になった。

マイワシは近年の資源量の低水準の中で、消費地でのマイワシの入荷も少ないが、本年は昨年をかなり上回った。

価格は、321円で前年（381円）を下回り、これは入荷の増加によるものであり、こうした傾向は、家計消費にも反映し数量、金額とも増加がみられた。

塩干は、1.1万トンで前年（1.2万トン）をやや下回り引続き減少傾向にある。